

# 進化しても“ステージ上で奏者が輝く” というコンセプトは変わらない

ヤマハが開発した電子オルガンであるエレクトーンは、1959年の誕生から現在まで多くの音楽家に愛され、また音楽教育の現場でも存在感を放ち続けている。ピアノと並び、まさにヤマハを象徴する楽器のひとつといっても過言ではない。

そんなエレクトーンにとって、大きな転機となったのは2004年。インターネットの発達に代表されるデジタル化に対応しながら、リアルタイムで演奏することの楽しさを追求した「STAGEA」が登場したのだ。

「エレクトーンはひとりでオーケストラのサウンドが出せるだけでなく、さまざまなジャンルの曲が弾ける楽しい楽器です。その魅力をひとりでも多くの方に知ってほしい、そして奏者がステージの上で輝いてほしい、という願いが『STAGEA』には込め

られています」  
こう語るのは、ヤマハの鳥村浩之さん。エレクトーンをはじめ、電子楽器の開発に長年携わっている。

「『STAGEA』は2014年にモデルチェンジを行い、このたび登場した『ELS-03シリーズ』が3代目となりますが、製品に込めた思いは変わりません」

もっと多くの人に知ってもらい、“弾きたい”と思ってもらえる楽器づくり。「ELS-03シリーズ」は、前モデルの登場以来、12年の間にヤマハが蓄積してきた電子楽器に関わる技術の中からエレクトーンらしさを高められるものをピックアップし、応用させながら開発を進めたという。

「目標とする楽器像として“従来の枠を超えたい”という気持ちがありました」と鳥村さん。代表的なものが、

上鍵盤の左側に配置された9つのスライダーだ。これを用いて、各ボイスセクションの音量や明るさをリアルタイムで調節できるようになった。オルガンサウンドを使用する場合はドローバーの役目も果たす。好みに調整したい機能を割り当てることもできる。これによって、サウンドにこれまでにない表情がつけられるようになり、より自由な表現が可能になったのである。

「もちろん、これまで鍵盤とエクスプレッションペダルだけでさまざまな表現ができる楽器としてエレクトーンの開発を続けてきました。『ELS-03シリーズ』もその部分はかなり強化しています。加えて、今回は“鍵盤から手を離して操作してもいいのではないか”という、文字どおり“従来の枠を超えた”発想を盛り込むことで

奏者の選択肢を広げ、演奏の可能性も大きく広げることができたと思っています」

エクスプレッションペダル、フットスイッチ、そしてスライダーを使ってリアルタイムでさまざまなパラメーター（音色や演奏などの設定）を操作できる機能は「ライブエクスプレッションコントロール」と呼ばれている。

## レガシーを振り返って 生まれたデザイン

「奏でよう、あなたの色で。」  
これが「ELS-03シリーズ」のキャッチコピーだ。コンセプトを鳥村さんに訊ねると「このコピーがすべてを表しているような気がします」と返ってきた。前出のスライダーとともに、ひと目見て“変わった”と思えるのが、黒と白を大胆に使って統一されたモトーンのカラーリング。音楽に彩りを添えるのはあなたですよ、といわ

んばかりだ。ここでデザインを担当した風当将文さんに聞いてみよう。

「音楽教室、自宅、そしてステージ。エレクトーンが演奏される主なシーンはこの3つで、従来はどれも同じぐらいの配分で考えていました。しかし今回は、特にステージ上での見栄えを大事にしたい、プロが使っている姿を見た人が憧れるような楽器にしたいと考え、それをデザインのテーマとしました」

加えて“古くならないデザインを”という視点も大事にしたという。そこで風当さんは65年以上にわたるエレクトーンの世界を改めて見つめ直し、そのレガシーからデザインのヒントを探っていた。

そうして導き出されたのが、1970年代をリードした「EX-42」や「GX-1」に代表される、白い筐体に黒いコントロールパネルというコンビネーションだった。



モデルプロデュースを担当した鳥村浩之さん(左上)、音響を担当した沼野俊亮さん(右上)、鍵盤の開発を行った吉崎悠さん(下左)、デザインを手がけた風当将文さん(下右)。

「これらの機種は50年以上前のものですが、今でも古さを全く感じませんし、中に新しいテクノロジーが詰まっている印象があります。それでこのデザインのイメージを踏襲することに決めました」

ボディは、大きな面をスパッと切ったような、インパクトがありつつすっきりとした形状にして、実際に物体を手づくりしてボディや鍵盤を目の前にしたときの迫力や重厚感、強度、バランスなどを子細に検証しながら作り込んでいったという。

## 革新POINT 1 ライブ感を上げていく「ライブエクスプレッションコントロール」

スライダー、エクスプレッションペダル、フットスイッチが音色やリズムを多彩に変化させ、奏者の個性をリアルタイムで表現する。「フィルター」「リズムパートミュート」をはじめ、40

以上のパラメーターから選んで割り当てておくことで、それらを演奏中の好きなタイミングで変化させることができ、弾くたびに新しい表現を生み出せる。



**スライダー**  
「ELS-03シリーズ」で初めて搭載された9つのスライダー。繊細なニュアンスの表現からダイナミックな切り替わりまで、スライダーの動きに合わせて音が自在に変化する。複数のスライダーの同時操作も可能。

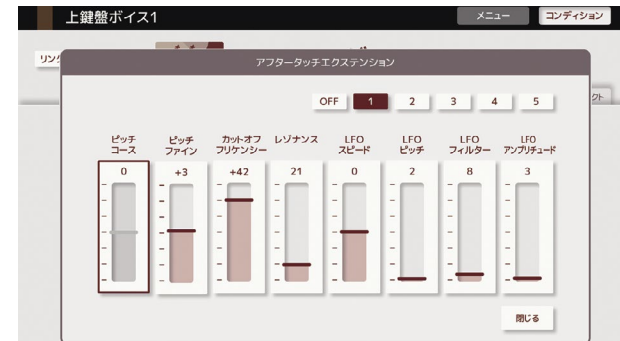


**エクスプレッションペダル**  
2つのエクスプレッションペダルとフットスイッチにも、音量やピッチベンド(音程を連続的に上下させる機能)をはじめ、さまざまな機能を割り当てられる。両手で演奏しながら足で操作できるため、表現の幅が格段に広がる。

## 革新POINT 2 繊細さもダイナミックな表現も可能にするアフタータッチ

鍵盤を押し込むことで音量や音質を変化させるアフタータッチも、エレクトーン演奏の醍醐味。「ELS-03シリーズ」の進化したアフタータッチは、さまざまなパラメーターを変更するこ

とでアコースティック楽器の表現をリアルに再現したり、電子音ならではのユニークな表現を可能にしたりするなど、指先で多彩なサウンドを奏でられる。



**アフタータッチエクステンション**  
音量やピッチ、フィルターを調整できることに加え、音質や音の揺らぎなどでも演奏中にリアルタイムで変化させることが可能。鍵盤を押さえる指の力の強さにより、多種多様なサウンドを自在に作り込める。



**ポリアフタータッチ(クラスXのみ搭載)**  
新開発のFSX-i鍵盤が、1鍵ごとに圧力を検知。同時に複数の鍵盤を押している際も、それぞれの指が押し込む力の強弱に応じて、アフタータッチの効果を指(鍵盤)単位でコントロールでき、奏者の細やかな感性を反映する。